

## 三河湾の干潟で絶滅危惧種のヤドリカニダマシ (十脚目：異尾下目：カニダマシ科) を発見

西 浩孝\*・北河紗衣\*\*

The occurrence of an endangered decapod, *Polyonyx sinensis* (Anomura: Porcellanidae)  
from a tidal flat in Mikawa Bay, Aichi Prefecture, central Japan

Hiroataka Nishi\* and Sae Kitagawa\*\*

### はじめに

カニダマシ科に属するヤドリカニダマシ *Polyonyx sinensis* はツバサゴカイ科の多毛類ムギワラムシ *Mesochoaetopterus japonicus* の棲管に共生する甲殻類である。宿主のムギワラムシは、かつては関東以西の砂質干潟に遍く分布していた普通種であったが、九州以外において著しい減少傾向が認められることから、絶滅危惧Ⅱ類と評価されている(山西, 2012)。このことから、生活史の一部をムギワラムシに依存するヤドリカニダマシも危険な状況にあるとして、絶滅危惧Ⅱ類と評価されている(渡部, 2012)。また、これまで知られていたヤドリカニダマシの分布は、紀伊半島沿岸、瀬戸内海及び有明海であった(渡部, 2012)。2014年になって、モニタリングサイト1000の調査において三河湾奥部の汐川干潟からも本種が確認されている(環境省自然環境局生物多様性センター, 2015)。三河湾は、本種の分布の東限である。

このたび、三河湾奥部の干潟、前芝海岸において本種の生息を確認したため、生息地の状況を含めて報告する。前芝海岸においては絶滅危惧種の二枚貝ムラサキガイ *Hiatula adamsii* の生息も確認されており(北河・西, 2016)、底生生物の貴重な生息地である。

### 生息地の状況

前芝海岸は、豊川河口右岸に広がる砂泥質の前浜干潟である。著者の1人北河は、2015年3月10日、前芝海岸において、生物の調査を行っていた。干出した干潟の砂地のところを掘っていたところ、砂の中から本種を発見した。写真に記録した後、その場に放逐した。

また、著者の1人西は、2015年4月17日、豊橋市



第1図. ムギワラムシ棲管とヤドリカニダマシ。

\* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan. E-mail: nishi.hiroataka@gmail.com

\*\* 豊橋市立前芝小学校. Toyohashi Municipal Maeshiba Elementary School, 30 Nishitsutsumi, Maeshiba-cho, Toyohashi, Aichi 441-0152, Japan.

原稿受付 2016年2月16日. Manuscript received Feb. 16, 2016.

原稿受理 2016年3月2日. Manuscript accepted Mar. 2, 2016.

キーワード: 甲殻類, 十脚目, 底生生物, 豊橋市, 愛知県.

Key words : Crustacea, Decapoda, benthos, Toyohashi City, Aichi Prefecture.



第2図. ヤドリカニダマシのオス (TMNH-C-20).  
スケールバーは5 mm.

自然史博物館主催の学習教室「潮干狩りで学ぶ干潟の生物多様性」の下見のために干潮時に前芝海岸に行き、底生生物を調査した。ムギワラムシが多数見つかったためショベルで掘り出し、棲管を開いてみたところ本種が棲管中に共生しているのを発見した(第1図)。同一棲管中にオス・メスのペアで共生しているものが2組、メス単独のものが1個体であった。2015年5月16日に開催された学習教室「潮干狩りで学ぶ干潟の生物多様性」でもオス1個体を採集した。70%エタノール液浸標本を作成し、豊橋市自然史博物館甲殻類資料(TMNH-C)として保管した。

## 標 本

カニダマシ科 Porcellanidae

ヤドリカニダマシ *Polyonyx sinensis* Stimpson, 1858

(第2図)

標本: 5個体 (TMNH-C-19 ~ 21), 2015年4月17日,

西 浩孝採集; 1個体 (TMNH-C-22), 2015年5月16日,

西 浩孝採集。

## 謝 辞

竹島水族館には、本種の同定において助言をいただいた。三重大学大学院生物資源学研究所の木村昭一氏には汐川干潟におけるヤドリカニダマシの生息についてご教示いただいた。北河範枝氏には調査をサポートしていただいた。感謝申し上げます。

## 引用文献

環境省自然環境局生物多様性センター, 2015. 平成26年度 モニタリングサイト1000 磯・干潟 調査報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田, 73 p.

北河紗衣・西 浩孝, 2016. 三河湾で絶滅危惧種の二枚貝ムラサキガイを確認. 豊橋市自然史博物館研報, (26): 15-16.

渡部哲也, 2012. ヤドリカニダマシ. 日本ベントス学会(編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック, 東海大学出版会, 秦野, p. 188.

山西良平, 2012. ムギワラムシ. 日本ベントス学会(編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑—海岸ベントスのレッドデータブック, 東海大学出版会, 秦野, p. 225.